

# 大規模言語モデルと意味：ウィルフリッド・セラーズの 哲学を手がかりにして

荒井 柚月（東京大学）

## 発表要旨：

ChatGPT や Claude、Gemini といった大規模言語モデル（Large Language Models; LLMs）の技術的進展が著しい。現在の LLM の出力は、人間の言語的パフォーマンスにおけるそれと認識的に見分けが付かないほどであると言われている。しかし、この大規模言語モデルの出力が形而上学的に意味を有しているか否かという問いについては現在も侃々諤々論じられているところであり、特定の解に収束していない。本発表では、20 世紀中葉に活躍した米国の哲学者ウィルフリッド・セラーズの哲学から、この問いに対して肯定的かつ楽観的な答えを提示する。セラーズは、サイバネティクスに関する考察を行った *Being and Being Known* (1960) などにおいて、言語的かつ非人間的である現在の LLM の存在論的身分を考えるにあたって先駆的な考察を行っていた哲学者であるといえる。また現在では、LLM の出力の有意味性について推論主義的な立場から擁護している Simonelli (2026) など、推論主義と LLM に関する議論も進展している。本発表は次のように進む。まず、LLM の出力の有／無意味性について、セラーズの哲学からは異なる階層における応答が可能であることを論じる。つまり、概念図式・言語ゲームの相対性という 2 階の応答と、機能主義や心理的唯名論といったセラーズ哲学の内部からの擁護という 1 階の応答である。2 階の応答は、意識やカント的自我という観念に優越性を与えるようなギリシア哲学の伝統を引く直観が、LLM の有意味性にかかわる論証に寄与していることを実験哲学的な意味において明らかにする上で、指摘される価値のあるものである。しかし、本発表では 1 階の応答に焦点が当てられ、とくに、LLM の理由の論理的空間への参入可能性、メタ言語的述語「意味する」の規範性、分析的真理のプラグマティックな多元性、という 3 つの観点から応答が試みられる。ここでは、LLM の理由の論理的空間への参入を否定的に論じた Sambrotta (2025) のテーゼ——「LLM は統計的処理装置に過ぎないため、それは理由の空間に入ることができない」——が、セラーズの空間の分離性テーゼ（理由／経験的記述の空間; Sachs, 2025) に反する点において失敗していることが示され、LLM の理由の空間への参入可能性について応答がなされる。さらに、後期セラーズにおいて確立された推論的意味論・規範的語用論の規範的局面が、言語モデルの訓練メカニズムに対して「相補的」（Mills, 1993）であり、セラーズ哲学において特徴的であるプラグマティックな分析的（先験的）真理という観念もまた、LLM の相対主義的・観念論的性質に相補的であることが示される。最後に、これらの相補性はセラーズの自然主義が LLM において達成されていることを示唆するものであると主張される。

## 参考文献

- Mills, S. (1993). Wittgenstein and Connectionism: A Significant Complementarity? *Royal Institute of Philosophy Supplements*, 34, 137–157. <https://doi.org/10.1017/S1358246100002484>
- Sachs, C. B. (2025). Naturalism and Anti-Psychologism: The Pragmatist Roots of Sellars's Philosophy of Language: *Revue Internationale de Philosophie*, Vol. 312(2), 35–54. <https://doi.org/10.3917/rip.312.0035>
- Sambrotta, M. (2025). LLMs and the Logical Space of Reasons. *Minds and Machines*, 35(4), 46. <https://doi.org/10.1007/s11023-025-09751-y>
- Sellars, W. (1960). *Being and Being Known*. *Proceedings of the American Catholic Philosophical Association*, 34, 28–49.
- Simonelli, R. (2026). Sapience without sentence: An inferentialist approach to LLMs. *Asian Journal of Philosophy*, 5(1), 48. <https://doi.org/10.1007/s44204-026-00400-4>